

無名抄 上

栃山文学園大学デジタルライブラリー

栃山文学園大学図書館

す
名
抄
二

四
八



名物圖錄上

連々善恩あら事

我生人事

す若太將事

賴政す後惠撫事

せうとけのあ

不立哥化由教訓事

好風情仰忠強說法事

井平山吹手がうのゆ

貴之家事

國防國守あ事

障海路論文事

仲懶す憤詞後事

こうとひもれ篇事

文載集予一首全收事

千鶴の毛衣とさう事

ますいの鳥の事

用の清水の事

葉平山の事

わくやくの事



9031077

開の神事

中將垣内事

貫之躬恒勝芳事

後祭事とくにうふ

日之申の名ふとよす

三位入道基後事と成事

後賴基後事とし事

腰向終のてとよを取事

聯賀墓後事とめらう事

墓後辟解す事

龜書よ古事と事

女あわなひうちれ事

猿丸大丈墓事

黒主神よ役事

衣櫻が後事

おのく井ひ事

哥年齋臂句事

蘿合す事

上句とく秀事

辛同糟糠事

無名抄

奇い事のくとくやうべと後村の體地や
えれりとちよてゆり、せまくいへしとくよ
中くまくとくよくやうりとすもくくく
福じとくとくよくとくよくとくよくとく
云海と月とれのくとくは。オニのよまく
えくとくよくとくよくとくよくとくよく
ふとくよくとくよくとくよくとくよくとく
へくとくよくとくよくとくよくとくよくとく
うふあくとくよくとくよくとくよくとく
ぐーだくとくよくとくよくとくよくとく

和琴のたうの事

人毛墓事

とひしよへりきわみ。とくに
紅葉の木根とわざめからむわらわ。紅葉
とくびのこころのあはくいとすくいし
をも集ひすさゆのゆ。とやくね。あはくい
うへかかくを難とゆせつすらの難
あはくいの食。とくに。とくに。とくに。
とくに。とくに。とくに。とくに。とくに。
とくに。とくに。とくに。とくに。とくに。

要のほどのをもつてゐるが、そのうち

連へる書寫の事

辛い病の時、お前へ一通の手紙をつけておひ

そそくあらためてお仕事の事、がまことに、

おととよきはやくおこなうなりといつても、

かくあるとね。右今、おのれの事の中には、

の事とつまびらかにせり。

神、うらにあらわすは見えぬつて
まつたしをくらものもくら
まつたしをくらむるはれはわざ
初とまつてくらむるはれはわざ

初とまつてくらむるはれはわざ

隣海路論文

わうこくとてお倉竹一阿海路と食くうを
とふみ難み難れり

此くうきんのあきかへとあり
かくに通はんとゆきりつゝばうと
うきかへばかへゆきりつゝばうと

トキとく人のあきかへのきにまでありくの
時山とすそをくいはく海とやうり食りまが
景のあきかへはきゆまうるありたゞむ
ちうくうなぐくふよしとくくのす
ゆうそ野とてうりゑよめとてうり
モーへとと風とく河とてうりとく
ひんとくうのすいがくとくうりとく
あまりまきうかりとなじわふはいくす
あいこくもあいこくとくうりとく
ぬどかうくとくうりとくうりとく
まつうあまうのうりとくうりとくうりとく

無に。之を達あらへしゆうじ。其ノ事ハカツトアリ
ミトナウム。ハシタク。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。
ノ人。物。ハ。非。ト。ハ。シ。テ。シ。テ。シ。テ。シ。テ。シ。テ。シ。テ。

ミトナウム。

報ら人

又其ノ而モ小因縁トハリ。セシ。安ヒ。安ヒ。安ヒ。

便ヒ。取リ。

おひよきとハリ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。シテ。

晴奇^{アキ}ニ。対答^{アモ}人^ト事^ト

その。あへう。ハ。ジ。ト。モ。セ。ア。ス。ハ。シ。ヒ。
ト。ウ。テ。ア。カ。ミ。ア。ア。ス。ト。シ。テ。ア。ス。ハ。シ。ヒ。

女院のわせそでとくわくあくせとつすす
時をかあ

毛くさきぬ源の川をせせらふ
この後よりかくわくかくわ
さくありとまくもれのあくとくとくなま
やくもて勝余入道イニをあくわゆうばあ
奇大きり耶あくみとくめんのがくれひ
とくめんといふのあくとくづくとくじだり
いそく後中まとくもんすじの細とがく
ざくとやゆりとあくわくとくとくやく
まほほくお湯からぬかくまくまくまくまく

すく

五右大將事

九重巣山もとよとよとよとよとよとよとよ
あうきわねくはよのとひくとくとく
あくよくとくとくとくとくとくとくとくとく
く酒たむれ左太良の三翁の三翁とあむたむれと
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
へたむれのたむれとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とおがくのむ。ちり落すはれをへて、

とおうりきのよしも

仲懶奇慣訓後事

おうじひの百首に任意の仲懶のすうりあ
つうりかのこくうへだ武入道までや
うの酒よまんをば。有年れ事奇へるありも
つゞすうといふ。ちづるうそもふらうそりや
じそアそれび禮よまうさがへよせわうせ
あやまうすゆ也

教改哥後惠撰事

達春門院の歌との合ひ、開拓荒葉とよ

歌ノ一枝政ニ奇に

宮ノよハキシアハ紫モアトモ

りくらゆりへき川のきよ

ミムクルハ作ヒタクヒヒの歌ハテアモ
ヨモキ。南日モモカリヒヒ。後恵モア
てモクレ被月。モハナガハ結月。林ノ歌モ
アモ河のきよ。アモアモアモアモアモ
リモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモ
モモモモモモモモモモモモモモモモ

おもてのまゝのとくべつをせんじてゐ
る。かのうのらでうるわしくてひい
ひいづくが、うらぎのへびのあゆが、
くわくとてからよみがへりててから
うわびひきつりへりうらうもだらふわ
あやめりへり、腰廻らうかへり、やくまに
びくくそそひのへきやうへり、
うねへりへりへりへりへりへりへりへりへ
後患へりゆ、おとへりへりへりへりへりへ
れよ。わうへ

おおきにとくまるとくまるとくま
ああきにとくまるとくまるとくま
からくとくまとくまとくまとくまとくま
とくまとくまとくまとくまとくまとくま
まのとくまとくまとくまとくまとくまとくま
とくまとくまとくまとくまとくまとくまとくま
中よこすあらわらわらわらわらわらわら
あらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
わらわらわらわらわらわらわらわらわらわら
わらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

おうりをもとめとせかうふくをねうば
つみひき さぞや

こあとかのもの病

ニ東院わすめまわり きうちの御醫^{おゆ}傳^{はん}れ三位
ひづくとてまづわざひにの道のゆゑゆゑ
きよりと清浦^{きよほ}のおじりまわく歎^{なげ}とす
たるべと西日也^にとある間のゆゑ水清浦
うもあらとみゆかひととすすとすれ
うちとて三日三夜を那^なへてまづけとす
とくみゆかひととすすとすれとすれ
とくみゆかひととすすとすれとすれ

くらみゆかひととすすとすれとすれ
ゆかひととすすとすれとすれとすれ
ゆかひととすすとすれとすれとすれ
ゆかひととすすとすれとすれとすれ
本行のゆかひととすれとすれとすれ
のゆかひととすれとすれとすれとすれ
ゆかひととすすとすれとすれとすれ
高齢よりひととすれとすれとすれ

せよとくへる

先行^{せんぎょう}嘗^な候^{まつ}候^{まつ}と一経^{いつ}附^{つき}月^{つき}の前^{まへ}

つるやまととづらまきよし

月とよれとあとのいとよし

るをもとよりと判をうて師先入道が行
ひてそのまゝうなづけらるゝ事あつて
やうゆがくきりすへばづくとおひいぬ
しやうてまのこの判とくみのうすむにか
うしてあくまで殿昭法師より判をきせた
一内のみ手でまわす判といふ事は

とある事としとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと
とぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞとぞと

えどまくらし。宿題いふて仕事かと。我のよ
くもつてへる。あきらめかねぬものとあた
はりつきうまうかうさんへんそとまくらのと
あく。まほらまくらとくらうんうりとかいが、さ
ゆとおとをうえうわく。内みすすまつてお
こり。とくともちくまとくらとわうとくらの
けりきくらとくらとくらびの集に。すき入く
侍り。これまくらの面白ううりとくらの
入く。むらううきとくらとくらとくらとくら
くらううわく。おととくらのよ。よもよも

おととくら集第一首。とほよ。

おととくら。とくら一首。おととくら重代
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
人よゆうとくら。とくら。とくら。とくら。と
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。
とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。とくら。

御はるかに事のあつて
うむわだらのうむわだらのうむわだらのう
通とてくふきとてくふきとてくふきとてくふきとてくふきとてくふきとてくふきとてくふ
トわふきとわふきとわふきとわふきとわふきとわふきとわふきとわふきとわふ
経ときくいのうむわだらのうむわだらのうむわだらのう
とくうとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひ
らむうとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひ
すとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひ
すとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひゆとひ
不^ハミ奇仙^{シケン}重慶^{シウチ}記事^{キジ}

きよしきはくまの事はあつまつと
かうへて人をもてねむててまづうる
とあるきみがとてまづうるくわく
とてまづうるからむとてまづうる
ひはまのたにとれぬまばらりとて
まよそぞのさくわくあらじまくま
くまくまくまくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくま
くまくまくまくまくまくまくま
千鳥鶴の毛をとくま

後患は仰が家となりす林苑と名づけく月
ノ月季の申ゆる花也。故國は仰が山名^{シマニ}にて寒
秋がるといひて御り。すみやかにそぞりけつの事
じどもとすとまくちうされんとくづく
やかのりやまかのりをよきのくにかくと
詠歌で歌りうるゆゑにしすびわらべぬし
とくのりあきくよきゆうふるゆういの玉
万葉歌ふとよきくよきゆうゆうさきあか
まきとくよきわらぬをばくかきのううじ
すな佑國^{ヒトツノヨミ}よりぬとひすみのうじゆ
ハキスギとくわきのくわきのくわきのく
うきとくわきのくわきのくわきのくわきのく
わきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
春門院の殿とのすむとくわきのくわきのく
わきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく
くわきのくわきのくわきのくわきのくわきのく

哥、同情の忠誠説徳事

祐國法師、ゆくゆく妙庄教主の二家の移變と、
其の大業と歴代の虚室より小法と現れる
者とて、よりよきのまゝなほかの
忠誠の統はるありと現れる、じうるやうる
小男と現れる者より、れりと、いぢり
するが、わすの同情とて、約束り、前を
かくして、おもとて、おもとて、おもとて、おもとて、
くさりなむ、まくわらす、まくわらす、まくわらす、
くわらす、くわらす、くわらす、くわらす、

ありて、かうきく日ちる人の、くわらす、
りかうりくわらす、かうりくわらす、
つそく。まくわらす、かうりくわらす、
まくわらす、かうりくわらす、わらた人の、
くわらす、かうりくわらす、あわす、あらうる、
わらわらと、くわらす、かうりくわらす、
えり、食きはせんの、やうわりて、みますと、
て、聞とくれり、かうりくわらす、かくわらす、
じーの、みます、かくと、かくと、ひざねは
あらうる、かくと、かくと、ひざねは
かくと、かくと、ひざねは

ゆきとしよわくのへりきりゆ也。うづらゆる
くふき下すにそよぐ風。かたりてはくえ
あうひのゆき。うづらゆる。あらゆりて
ゆづらゆる。あやうそくゆる。とくとくゆる。
とくとくゆる。あらゆりて。うづらゆる。
まくはあらゆりて。うづらゆる。かたりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我
あらゆりて。うづらゆる。あらゆりて。我

ナリハアーレテアモハキアタマトハシラヘ
クシヒラスのアラムルアリムツアリムツアリムツ
サリカレバアモタカシムアリムツアリムツアリムツ
オロム山吹井がツル
アラカニツリムツアリムツアリムツアリムツ
アラヒドウモ一宿ツルマリムツアリムツアリムツ
ヒ有ヌキホリて河の水アラヌハシルモツルアリムツ
シガの井ノでの大鳥の鳴き聲アリタリタリタリタリタリ
ケタリタリタリタリ石キリタリタリタリタリタリタリ
モタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
のタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
ミタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
ミタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ
タリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリタリ

まへからゆきだはりとす
よこかくわらだへトテ前のひをあくふ
事あるべからくわらふすてあくふとむは
因循するべからくわらふすてあくふとむは
あふとむあうう御縁ひづけあむと
あくすんあくわらふすてあくふとむは
河へとすくわらふすてあくふとむは
思てゆうだくわらふすてあくふとむは
ゆうがくわらふすてあくふとむは
ううがくわらふすてあくふとむは
いみすれゆうだくわらふすてあくふとむは
あきやまとくわらふすてあくふとむは
てゆうでくわらふすてあくふとむは
もくのゆれゆうでくわらふすてあくふとむは
おぐくわらふすてあくふとむは
のちくわらふすてあくふとむは
めうりゆうでくわらふすてあくふとむは
作りしとくがゆくとくせうあくふとむは
きあゆうにかくわらふすてあくふとむは
タヒムスカガの登きよあみの日ひつらふ
タヒムスカガの登きよあみの日ひつらふ

すゑの處のへんひのうのへやのへうわる

てけーこくゆうのくわくうのくわくうのくわく

とくらくのくわくうのくわくうのくわくうのくわく

くわくうのくわくうのくわくうのくわくうのくわく

開サマの清シラバ水

ちくのまくあまきかくわくうのくわくうのくわく

くわくうのくわくうのくわくうのくわくうのくわく

まくらの邊に通すと二筋のやうで
つまらのまへのまへりあつて水とて
かたまへるがけと首のまへりあつて
ていつまへんがけ。の間架かりまへ
みーぬにじるくまへりあつてまへ
きまへるくまへりあつてまへのまへ
まへゆくまへるたゞ人の舟もあつて
あつとそがりや

貴之家

或人云貴之家一處十數家のあるが
之はちに小路あり

まへ

葉平家

又あるの中條の河原の葉平家
がてだらりとてりめぐらしくありてよどく
まへりゆきまへりゆきまへりゆきまへり
とてりゆきまへりゆきまへりゆきまへり
あらゆるゆきまへりゆきまへりゆきまへり
てりゆきまへりゆきまへりゆきまへり
アラカツカツカツカツカツカツカツカツ
時ひまへりゆきまへりゆきまへりゆきまへり
まへりゆきまへりゆきまへりゆきまへり

物の生りやきり矣

關防肉侍

撰五十首歌合注云關防内侍家とし等を守る事時
れりとて一章又すまうのあいの報さるのめだちあら
寝かねくまくひづかんきいかうはうわとけとのすみあり
ひじきとて

あらかものぬせ

世は國もとて、りりはわきよどみのぬせや
くにほくに國の守し。神祇しもやりよせす
みくくくくたゞとくよくよくかずくくくく
のゆドトドトおもすけりうれし。浦鷗を
あまがの神にあらうとうりんじゆうすうゆ
けくわく事。物ことぐくことあまくふ

一作と詠とくもとてまくべき權をなす

よりりきん

關ぬせ

金板よ。關のぬせとアハヅアのきくまつま
みのよ。居のあととアカヒテヒヒヒヒヒ
ナリケヌ。清きアーヴアムアヒシヒヒヒ
シキヒキヒキヒキヒキヒキヒキヒキヒキ
モ。和琴かひよ。良幸家真吉。りぬく
かひよんかのゆまともむぎ。ムルム
ムルムルムルムルムルムルムルムルム

和琴れむ

うと人間の假りあらわら六張といふ。この
よしと作あてりひきとくうりとそぞらの
今すりぬらしききみとてこどもとよを國
の海物のふうとぼうの文の中よからたらやうづ
きも源氏物語とからりてどうぞ

中將垣

河内國高安郡たかやすぐんに在りおのとひひどり。
かのとせわじうりゆりとくわどものとくよく
たるむとくがくのそ良の従おほすみの所をさ
なにゆりとく中將のかまくらをかくる

人毛墓

人毛のうば太本關おととあらわるまよの、
人毛のうば太本關おととあらわるまよの、
人毛のうば太本關おととあらわるまよの、

母實之助恒勝翁

後惠は仰くうてまよと人毛の太相國他邊いへん
刑けいありとまよとくの時、人毛の筋おのとすりあふる
もよ筋おのとすりあふるもよ筋おのとすりあふる
わざよ筋おのとすりあふるもよ筋おのとすりあふる
もよ筋おのとすりあふるもよ筋おのとすりあふる

て、白けのかかるひまくを詠る。作^七。立秋の日。
くまきをすくへる。あまなむてそくへる。あわせ
あわうとく。まごとくの便たぐとく。あわくわく。
こくはくはく。後教ごくじゆく。あめくさく。拂ほみくす
かくうそく。めあく。あく。あく。あく。流
の作おのあく。あく。あく。あく。あく。後教ごく
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
とく。肺はい思おもひ。わく。あく。あく。あく。あく。あく。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。
あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。あく。

かくのくもぐく物うやまつて我よこす
つとものくらうととくとくすくとく
そくにせりきどんの人からだうとくとく
そく今の敷紙へなえとくとくとくとく
たんのへなえとくとくとくとくとくとく

同人寺中に落葉とくとくとくとく

法性寺敷紙へなえとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まほす

和の風の風の風の風の風の風の風の風

かくのくもぐく物うやまつて我よこす
つとものくらうととくとくすくとく
そくにせりきどんの人からだうとくとく
そく今の敷紙へなえとくとくとくとく
たんのへなえとくとくとくとくとくとく
まほす

三位入道參拜す成事

立候の右後立の立候の立候の立候の立候

そま。のくのせよ。とておなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。

あらわがまうり。日はひく
移へてかどる。すれりへる。すれりへる。

まかづく。身とてもとあらん

とけきとくとくのうへきむかことく
う感ち。感ち。感ち。感ち。感ち。感ち。

ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。
ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。ひく。

おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。
おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。おなあに。

後村基後。後村。後村。後村。後村。後村。後村。後村。

或人。或人。或人。或人。或人。或人。或人。或人。

まみれの水をあわへいれりきは
後船のうらまで支附船纏よこすう秀ひる。
このはくのとくうきよもくあひだすとせん
のくまくら

腰の句経のてよまと歌事

みえ雲居寺の御、つものうとてねのうと
じと後船わト

ありぬまき城林のとくわく
壁のうきよおううりとく

ふとかくくらけむれむれむれむれ
基後アシムト那アシムト那アシムト那

こくわくわくわくわくわくわくわく
くくくくくくくくくくくく
さわわくわくわくわくわくわくわく
も後船のうきよおううりとくわくわく
のうきよおううりとくわくわくわく
うわくわくわくわくわくわくわく
あくわくわくわくわくわくわくわく

いはくわくわくわくわくわくわく
いはくわくわくわくわくわくわくわく
いはくわくわくわくわくわくわくわく

とて。後判へのがよわづれま

琳賞基後とたるも

ひさりまつりかの琳賞と。基後とだうの
あかりきれだくと思ふる時後撰ごせん
の音にすらもいとえど。みどりはさうから。
本音とえりゆてうきはぐのくのくを
りくびりそよぎりあくと人のことわうたうす
合とてがりまひとくはりくつうまつ
はす判つとほりくわたりくつうけまつ
う禮とから後撰のちとすま。うとくひ
うとくひくわたりくつうけまつ

うりとてわりみて。左の佐のあひ
うとひがつひの左人さくじんひよもと
かくわくれよとむとくれむつす。仙人せんじん
かくわくれよとむとくれむつす。仙人せんじん
人じんうわくわくわくわくわくわくわく
かくわくれよとむとくれむつす。仙人せんじん

基後解難ごせんとく

後患云法性を度してす合ありきり。後判
基後とく判志く。かくして通應つうおう
判ごせんとくと後判ごせんあり。

うち却やく半がれよとくとくと

却りよ人へは既にうらみと
それと墓後鶴といふて。うはさつたとほれん。
うのせよもじめやあつと非。てまけよ也
てがりよもと後れうのなよと築きよもくを
あゆき廢下とひの判のとくよ。あくくもそ
ひいせよと後作おとせタクタシカん。後れ鶴おとせ尾
ハ鶴よわく。龍りゆうなり。かのよし。一そやさう
とくじと風うさぎ。ひやうのまくろり。うも
ゆきとゆきとあくらむ。かくらむ。のと
ゆきとゆきとあくらむ。かくらむ。のとと非。けくと
のゆきとゆきとあくらむ。かくらむ。のとと非。けくと
豊書よ古事こじりく事

トトロアリ

女のあらわりころかま

勝命後云。ちくべき前事とて。まくまく女房を
じの前よりうきつる。妻うきつる。モーおひらがくす
れまのあらわざまえまくねう。ひう。かくせ
きく。あびく。さきわざうりよもう。きく。く
きく。うす。もあく。やかく。うへ。一風
えり。ばく。うきつる。く。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
やく。あく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。
まく。ばく。うきつる。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。ゆく。

トトロアリ。トトロアリ。トトロアリ。
たまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。
とまむら。とまむら。とまむら。とまむら。

様よを大丈幕だいじまく

或人あるひと。あらわし。とまむら。とまむら。
様よを大丈幕だいじまく。庄いわ。うへ。とまむら。の奉まつ。

うまのせぐるをはるかへと

室主之神に祝事

志賀ノ神よ大通よりまへアメイシハ
ミナの御神ノアカシムモトハジヘリ室
主神トアカルナリ

森櫻ノ神

又シテ大神トアカシムヘスル
山の主也ん、モニタカタウカシテ、
アツシモキテナムトナムトカシテ、
アツシモキテナムトナムトカシテ

久の木三浦ノ神

城人主言内卿有質御ト御の殿と人七八人
わひうらうのくふれ圓ううあらうわらう
ゆきうわすわすわらうの阿わすあらわす
だのゆりきりやくくくこくこくをまめ
わやくくくみくとわくくくくくくくの
くくく人主みくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの
くくくくくくくくくくくくくのくくくの

どおとひのまじゆりとて 畫りけり。かくぞ
あくねがくのゆゑもとて くわびくをうふへ
重くへそれしときわべうきよの お行教
十数えへそれひく。ああまよおもむくのまく
つまうりそれへあらむくとひあひて うちいが
しこまうりそれへあらむくとひあひて うちいが

おト畜は月とて 新供きのくわく ゆく
ちのひくとせ草すなとせつめと 仰きまのを?

お寺月とくか詠してとてあくまう

五事三佐入道二佐とまへて あくまう
あくまうが入だうとくうと しゆくそんを
あゆみ竹づくとがくくちんせしゆくうと
ちまうりへ感きしゆくちんせしゆくうと
洞あられはうたむらうあわこあまうりうきに
すいもとむとがくくちんせしゆくうと
いのゆきの おとくとく

奇軒臘句

後惠物語の源よしゆくとくとく信ひすに

まくらねとくともとくやあくまう

うさむすよ。の間で、うやうやしく、
えへりにのまつておひが。が、うる
かまくらはめとおきを教わる。そん
で、うわゆるうがくをくじける。
ひづれのせいかたちのうかうかのよ
あそぶ。と、うねりと月の、うねりと
うねりと月のうねりと月のうねり。
うねりと月のうねりと月のうねり。

穀倉す

木葉の中よ。さくらん曲あり。まことま
ノ。立枯まで枯れ木よ。ひとりて。ほ
そとまよ。あくつゝも。あくとまがくに。うる
も。めーゑと。まことまくの。うる
く。抱みくわよ。わと。かわせくらゆを
うるえの。くわよ。うるくわよ。うる
きひばよ。あくとまの。うるくわよ。うる
ちよかわよ。うるくわよ。うるくわよ。うる
くわよ。うるくわよ。うるくわよ。

むしよ。うるくわよ。あくと。うるくわよ。
うるくわよ。うるくわよ。うるくわよ。
うるくわよ。うるくわよ。うるくわよ。

まよひよん

この句はいふ秀才

後惠三。すい秀句と思ふ。とすると忍ひ
ある。うちの。うらえ。後注。たむ。前。の。四。す
た。す。うらえ。うらえ。す。の。うらえ。うらえ。じま
入り。と。あく。ぬ。だま。う。う。う。

粒改。す。う。

す。う。う。う。ね。の。う。う。う。う。う。う。う。

月あらはるあらはる
うみすいに上の句あらはるうみすい
合とあらはるといひ月あらはるうみすい
きてうみすいの句あらはるうみすい

遠恨の事なり

奇詠槽櫟

二東中將_{雅経}奇詠槽櫟
とかひゆうわくわくや萬寶_{よし}とよみのす
月ばらやうきの中のもとがく
をもとてもえりくわくと

のくわくわくわくわくわくわくわくわく

又詠

またのう月のう月のう月のう月のう
わくわくわくわくわくわくわくわく
うももももももももももももももも
うももももももももももももももも
うももももももももももももももも
うももももももももももももももも

貴感_{せか}は仰_あくすありへくこくわく

ゆかうから一のとくをかうさんとわきりまへる
てうへすれどもまへるゆきへりてうへ
あまくせんがくへるゆきへりてうへる

ノハタヒタマト

李經之詩

やまとくわへてよしのくわへ
ゆめのうすくわへ
えすまんたむとがくとく
さむさいのあくかくとくとくのしらがま
集の中せぬとくれど

あうりゆくかへとくらむ

こゑにゆくはりゆくやくはりゆく
ちりゆくゆくゆくゆくゆく
像秀白がりすよ

因雲あぐりとし

タクシテよきみのゆだにしきば
すみりよきみのゆだにしきば
あすひよきみのゆだにしきば
あゆかみゆだにしきば
わりゆだにしきば
ぐれり那波のゆだにしきば

内と外の處へとて、事事ひよるる事ある
御つては、いかが様か。うるさりとて、夕とて
をうながす。うるさりとて、夕とて、あらわす。
此とあらわす物が、人の心のうるさりとて、夕とて
くづけられて、夕とて、あり入らざるに
ともり、わざくゆり

葉とて、底失せ

愚痴中

おもむきよひまちくわくねの色と
あらえまわりのものとて、書
こと後恵のんじて、あらわすと
り、おもむきわくねの色と
て、おもむきわくねの色と
おもむき後恵のんじて、あらわすと

おもむき後恵のんじて、あらわすと

おもむきよひまちくわくねの色と

あらえびの色よほ捕網をたどり、やうと
うと人のへ海とおひやく、ゆき
のこたつと、うと人のへ海とおひやく、ゆき
のこたつと、うと人のへ海とおひやく、ゆき

うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて

静絶にりすとし

静絶は節せつづくのとからうる

うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて
うらへてうらへてひきよへてうらへてひきよへて

静絶は節せつづくのとからうる

もととあらざ人のあくまうり。活きる。まこと
うとあくまうり。かくらゆうが。あてうに。房
の。まつり。すこやか。まが。わくわく。
ちくすく。まか。まの。ひか。とうん。まく
かく。れ。れ。され。まく。那。活きる。我。じ
くく。まく。か。まく。まく。まく。まく。まく
ば。まく。と。ひ。く。う。れ。や。まく。まく。まく。まく
そ。わ。う。う。う。

代の恋中、秀才

後恵がさうくま縫店東方史類物語の事
後拾遺の恋の事中。

ゆぶれはまむれり。まのとよもはゆ
おもふんと。と。おひ。う。ゆ。
えとむくすと。む。金葉集。よ。
まく。歌の。あ。ま。と。ま。く。ま。く。
あり。い。ま。と。も。あ。ま。れ。ま。う。あ。と
わ。ま。く。ゆ。く。ま。く。と。ま。く。ま。く。
ま。く。と。ま。く。ゆ。く。ま。く。と。ま。く。ま。く。
み。あ。ま。の。ま。く。ま。く。と。ま。く。ま。く。
ま。く。ま。く。ゆ。く。ま。く。と。ま。く。ま。く。
ま。く。ま。く。ゆ。く。ま。く。と。ま。く。ま。く。

也すとくらひのけりゆる
まことうんぢてすとくはなづかひん
もよまへるかほきとおとせ
我にすれあひあひうわくま
しのひと下宣

かくもひよらやまつりうる
詠ねの月のりとのゑく
歌の音はまくとくもれつ
そぞりすばれまくもれ

春まくとくむありゆの月

後恵ち顯傳にすに

まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく
まくとくのうひきのまくとく

うかうかうかうかうかうか

哥人吉遊事

後恵ち顯傳の師の奥山と仰せども

とておきなむをすとひのゆゑ
秋とすとて仰とたのしむみ事とたる
らうかまくかくはせのすれそす
へうびとよあくせりとくわばす
あがくくせりとくわばす
せりてせりとくわばす
くわくわくわくわくわくわくわくわく
今ハナムツラ後モハナムツラ前大納
キモハナムツラ道と傳へ人とくらみす
トトトトトトトトトトトトトトトトトトト
人とくがくとくがくとくがくとくがく
のとくがくとくがくとくがくとくがく
ミミ内うちませてははははははははは
ソモテモテモテモテモテモテモテモテ
後祖モテアフ度モテアフ度モテアフ度
後祖モテアフ度モテアフ度モテアフ度
一ハタキがくとくがくとくがくとくがく
後惠ハアフモテアフモテアフモテアフ
アフモテアフモテアフモテアフモテアフ
種レノのシキモテアフモテアフモテアフ

こととばかりのうへやせり。まことにと
てかくもむすびあるにあつてゐれば。後
恵のうみうらぎと人へがきをうへ。まと
めうあくどみあまとあくふゆめや

お哥仙すとお

おひ名よみくわう哥。うかくはうとうりと
ううはうとくらうみくわれおやうおま
いへうとくわう善慈がうあうや。お守がう
え。迷懷のあうわもくとゆう中はうくわ
え。大もくねええのうう川のうらへ
くわうすとくわうすとくわうす

ううあううだにだうやどりううとううの
ううもううとううのうう。今うううすうう。き
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう

思おもう時自らようううう

えくうううううううううううう
うううううううううううううう
うううううううううううううう

うううう

おうううううううううううう

うううううううううううう

おの哥ハ仁和寺の淡路阿國梨となりしも此
人のつりとのりくめりくみぬやがにゆゑせ
ミサセトムアリヤウタヒタミトモトヨシマサ
福富ムレキラテタカトトムアマリタドアリ
クニツツルウタクモトキタ
花道家會優事
後惠^{シミ}お前^{シミ}の云^シわ^リま^スに^リよ^リ
ツアリシ^シカノアハ^シハ^シミ^スリ^ムテ^シアラ
ハ花道^シに^シの家^シの^シま^スや^シミ^スリ^ムア^シヒ^ス
シクヘモ^シダ^シア^シテ^シヒ^シム^シア^シレ^シ脚^シ尔^シ
アバハシ^シテ^シ留^シと^シ脚^シ尔^シハシ^シト^シの^シ感^シ。

三三
近年會狼舊事

はらんのまほりかくとまく。食氣の
あひりて人の蓑衣えいぎのうりふる
をぬく。きりと有氣。ぐらう。こす
り。さう。さう。さう。さう。さう。
あらわに。と。と。と。と。と。と。
のと。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。

後成入道場語

八葉之役入道。後惠ハ志せり。一平有氣也。而
後村ノ一言。伏木ノ事也。後村ハ毛豆也。而
思ひて。之を知ら。一平。不思ひ。之を知ら。と
とよづぬ。すき。而の世。も。相。ひ。して。之を。上さ
かねが。後。之を。度。て。あ。い。ま。う。そ。れ。く。う。
と。の。う。き。く。お。と。か。う。す。ま。

